

## 日本の実力者たち（7）

### 入試に出てくる僧侶51人（2）

鎌倉時代の文化と言え、なんとと言っても「鎌倉新仏教」ですよね。念仏系の法然、法然の弟子の親鸞、そして一遍の3人。さらに、禅宗系の栄西と道元。そして法華系の日蓮の6人が登場します。不思議な気がしますが、源平の争乱の前後に浄土宗と臨済宗、承久の乱の後に浄土真宗と曹洞宗、そして蒙古襲来の時期に日蓮宗と時宗の2つずつが「ペア」のように生まれます。さらに、この6人のうち、一遍を除く5人が延暦寺で修行していましたが、それに飽きたらず修行を究め新しい宗派を創出しました。また、禅宗の二人は中国に渡り研鑽をきわめています。

これらの新仏教に対して、いわゆる「旧仏教」の側でも「改革」が起きます。法相宗、華嚴宗の僧侶のように法然を批判したり、律宗の叡尊や忍性のように慈善事業や土木工事を行って、民衆の救済につとめた僧侶もいます。

鎌倉新仏教が民衆の中に普及していくのは、実は鎌倉時代と言うよりも室町時代になってからです。なかでも、浄土真宗と日蓮宗は大きな宗派として発展していくことになります。浄土真宗の一揆は戦国大名ですら滅ぼされるような強い力を持ちます。日蓮宗の寺院も京の都で勢力を大きくしますが、延暦寺によって一時、追放されました。

ところで、臨済宗の僧侶は鎌倉幕府や室町幕府と密接な関係を持ち、将軍や執権のそばにブレーンとして仕えたり、外交官の役割を果たしたり、水墨画など文化の担い手ともなります。政情が不安定な中国から日本に渡ってきた僧侶もいますよ。

### 次の僧侶は誰？ 中世：鎌倉編19人

- ①浄土宗の開祖で、九条兼実の求めに応じて専修念仏をすすめた『選択本願念仏集』を著した僧侶。
- ②法然の弟子で、浄土真宗の開祖。『教行信証』を著した。
- ③踊り念仏で教えを広めた、時宗の開祖。
- ④法華宗の開祖で、南無妙法蓮華經の題目を唱えることをすすめ、北条時頼に『立正安国論』を献上した僧侶。

- ⑤南宋から禅宗を伝え、臨済宗の開祖となった。天台宗などの批判に答えた『興禅護国論』を著した僧侶。
- ⑥南宋から禅宗を伝え、曹洞宗の開祖となった。曹洞禅の本質について『正法眼蔵』を著した僧侶。
- ⑦北条時頼に招かれ、鎌倉に建長寺を開いた南宋の僧侶。
- ⑧北条時宗に招かれ、鎌倉に円覚寺を開いた南宋の僧侶。
- ⑨法然の専修念仏を批判した法相宗の僧侶。
- ⑩京都の梶尾に高山寺を開き、『摧邪輪』で法然の『選択本願念仏集』を批判した華嚴宗の僧侶。
- ⑪奈良の西大寺を再興し、社会事業にも尽力した律宗の僧侶。
- ⑫叡尊の弟子で、奈良に病人救済施設の北山十八間戸を築き、鎌倉の極楽寺で活躍した僧侶。
- ⑬南宋から帰国し、後の皇室の菩提寺となる泉涌寺を再興した僧侶。
- ⑭親鸞の言行をまとめた『歎異抄』を著した僧侶。
- ⑮関白九条兼実の弟で延暦寺の天台座主で、日本初の歴史哲学書である『愚管抄』を著した僧侶。
- ⑯我が国初の仏教史書である『元亨釈書』を著した臨済宗の僧侶。
- ⑰南都焼き討ちによって焼失した東大寺の復興に努力した大勧進職。
- ⑱もと北面の武士で歌人となり、隠者となって各地を遍歴して秀歌を残し『山家集』を著した僧侶。
- ⑲臨済宗の僧侶で、仏教説話集である『沙石集』を著した僧侶。

|             |         |         |         |
|-------------|---------|---------|---------|
| ①法然（源空）     | ②親鸞     | ③一遍     | ④日蓮     |
| ⑤栄西         | ⑥道元     | ⑦蘭溪道隆   | ⑧無学祖元   |
| ⑨貞慶（解脱）     | ⑩高弁（明恵） | ⑪叡尊（思円） | ⑫忍性（良観） |
| ⑬俊昶（シュンチャウ） | ⑭唯円     | ⑮慈円     | ⑯虎関師錬   |
| ⑰重源         | ⑱西行     | ⑲無住     |         |

## 次の僧侶は誰？ 中世：室町編13人

- ①京都五山の第一位寺院である天竜寺を開山した僧侶。
- ②①の弟子で、足利義満が帰依した初代の僧録となった僧侶。
- ③天台宗の僧侶で儒学者でもあるが、後醍醐天皇や足利尊氏の信任を得て『建武式目』の制定にも関与し、『庭訓往来』の作者とも言われる。
- ④民衆的な禅を説き、詩集『狂雲集』を残した大徳寺派の僧侶。
- ⑤本願寺8世法主で御文を使って本願寺派の門徒を急速に増やした僧侶。
- ⑥日蓮宗の僧侶で『立正治国論』を著して、6代将軍足利義教に弾圧された僧侶。
- ⑦五山派の僧侶で、朱子学者として薩南学派を開いた。
- ⑧戦国時代の朱子学者で南学（海南学派）の祖と言われる僧侶。
- ⑨水墨画に優れ、兆殿司とも呼ばれた東福寺の僧侶。
- ⑩禅の公案の題材である『瓢鮎図』を描いた相国寺の僧侶。
- ⑪相国寺の僧侶で『寒山拾得図』を描いたと言われる。

- ⑫周文に学んだ後、明へ渡り、帰国後は大内氏の城下町の山口で活躍し、『四季山水図巻』等を描いた僧侶。
- ⑬本願寺11世で、石山合戦で織田信長と戦い、和議により石山を退去した僧侶。

- |         |       |       |       |
|---------|-------|-------|-------|
| ①夢窓疎石   | ②春屋妙葩 | ③玄恵   | ④一休宗純 |
| ⑤蓮如     | ⑥日親   | ⑦桂庵玄樹 | ⑧南村梅軒 |
| ⑨明兆     | ⑩如拙   | ⑪周文   | ⑫雪舟   |
| ⑬顕如（光佐） |       |       |       |

## 次の僧侶は誰？ 近世：江戸編4人

- ①家康の政治・外交顧問を務め、武家諸法度の起草などを行い、「黒衣の宰相」と称された僧侶。
- ②紫衣事件で幕府に反抗し、1629年に流罪となった僧侶。
- ③1654年に来日し、黄檗宗を伝え宇治に万福寺を開山した僧侶。
- ④水戸光圀の命により下河辺長流が着手した万葉集の注釈書を『万葉代匠記』として完成させた僧侶・和学者。

- |        |         |       |     |
|--------|---------|-------|-----|
| ①金地院崇伝 | ②沢庵（宗彭） | ③隠元隆琦 | ④契沖 |
|--------|---------|-------|-----|

※今回の僧侶シリーズは菅野祐孝先生の『菅野の日本史フルコースゼミ』（代々木ライブラリー）を参考にさせていただきました。